



News Release

令和8年10月7日

学生のクラウドサービスアカウントに対する 不正アクセスについて

本学内で利用しているクラウドサービス「Microsoft365」の学生アカウント(1名)から大量の迷惑メールが送信されていたことが、本年8月に判明しました。本事案については不正アクセスの形跡が確認されたことから、8月の判明後速やかに当該アカウントを緊急停止しており、危険な状況は解消されております。このたび、再発防止策をとりまとめましたので、公表します。

現時点において、迷惑メールの送信による具体的な被害は確認されておりませんが、迷惑メールを受け取られた方々など関係者の皆様には多大なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

今後は、富山県警察本部の協力も得ながらさらに調査を進めるとともに、再発防止に努め、情報セキュリティ対策の徹底に万全を期してまいります。

1 事案概要

(1) 送信された迷惑メールの内容

- ・件数：計1,092件(8月23日(日)～27日(木)にかけて断続的に送信)
- ・宛先：不特定多数(GmailやYahoo!メールなど)
- ・内容：英語で写真等の入手を促す短い文章とリンクが記載

(2) 原因

- ・本人所有のPCが何らかの原因で悪意のあるソフトウェアに感染し、ID・パスワードが不正に窃取された可能性がある。(直前に本人の複数の私用アカウントに不正アクセスがあったことが確認されている)
- ・5～6月に同様の被害が複数発生したことを受け、本学学生が学外からMicrosoftアカウントにログインする際のパスキー・多要素認証を10月から義務化することとしていたが、8月はまだ準備期間中でありパスキー・多要素認証が有効になっていなかったため、不正アクセスが発生したものと考えている。

(3) 当面の対応

- ・Microsoft365以外の学内サービスも含め当該学生のアカウントを停止したうえでアクセス状況を確認。今のところ、メール送信以外の不正操作及び機密情報の漏洩は確認されていない。
- ・当該学生に事実関係の確認を行うとともに、県警と連携のうえ原因等を調査。
- ・緊急停止したアカウントに代わる新たなアカウントを当該学生に対して発行。

2 再発防止策

- ・10月1日（木）より本学の全学生のMicrosoft365アカウントに係る学外からのログインについて、パスキー・多要素認証を義務化。
- ・全学生に対し、適切なウイルス対策の実施をはじめとした情報セキュリティ対策を徹底するよう注意を喚起する通知を発出する。
- ・教職員のセキュリティ対策研修において、インターネット上の脅威から身を守るために教職員及び学生がとるべき対策に関し、改めて周知徹底。

現時点において、上記の事象による具体的な被害は確認されておりませんが、ご不明な点やご心配なこと等がございましたら、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

【お問い合わせ窓口】

E-mail : contact_secincident※pu-toyama.ac.jp

※を@に換えてください